

京都市立堀川高等学校 SSH 卒業生アンケート結果

○アンケートの対象

4 期生（平成 17 年 3 月卒業）から 18 期生（平成 31 年 3 月卒業）までの 15 学年の卒業生（約 3600 名）。アンケート依頼の発送数は 3186 であり、2 月 4 日現在の回答数は 712 であった。

○アンケートの内容・方法・検証

進学先については「学校基本調査」（文部科学省）、就職先については平成 27 年「国勢調査」（総務省統計局）、海外経験については平成 30 年度「海外留学経験者の追跡調査」（独立行政法人 日本学生支援機構）、科学や政策に関する事柄については「科学技術と社会に関する世論調査」（内閣府）を全国標本として、比較検討をおこなった。卒業後の年数の違いから、以下の 3 グループに分類して結果をまとめた。また、5 年前のアンケート結果と比較する場合は、本校卒業後の年数が同じグループ間で比較を行った。

グループⅠ：4～9 期生（SSH 研究開発指定 1～6 年目に本校入学、第Ⅱ期指定期間終了前に卒業した学年・学部卒 6～10 年経過）

グループⅡ：10 期生～14 期生（SSH 研究開発指定 7～11 年目に本校入学、第Ⅲ期指定期間に卒業した学年・学部卒 1～5 年経過）

グループⅢ：15 期生～18 期生（SSH 研究開発指定 12～15 年目に本校入学、第Ⅳ期指定期間に卒業した学年・学部生）

本校の大学等への進学率はほぼ 100%であるが、大学院への進学率、ならびに進学予定者も含めた進学率は、表 a、表 b の通りである。表 a は、左表が実際の修士課程進学率[%]（卒業生の修士課程進学者/卒業生の大学等進学者）、中表が進学予定者を含んだ進学率[%]、右表が学校基本調査による進学率[%]（修士課程進学者/その年度の大学卒業者）である。表 b は、左表が実際の博士課程進学率[%]（卒業生の博士課程進学者/卒業生の修士課程進学者）、中表が進学予定者を含んだ進学率[%]、右表が学校基本調査による進学率[%]（博士課程進学者/その年度の修士課程修了者）である。表 a から、修士課程への進学率は、学部等への進学者のうち 44%であり、表 b から、博士課程への進学率は、修士課程進学者のうち 27%であることがわかった。これらは、全国標本（それぞれ 10%、9%：学校基本調査）と比較して高い。また、5 年前の調査では、修士課程への進学率 38%、博士課程への進学率が 20%であったことから、この 5 年間で進学率が上昇している。

実際に、進学した者の専攻分野をまとめた（表 c、d）。修士課程への進学者、博士課程への進学者いずれの場合も、その専攻は理学、工学、農学の分野で割合が高い。修士課程の場合で、理学、工学、農学の順に、グループⅠで 16%、28%、12%、グループⅡで 14%、36%、20%、学校基本調査（平成 31 年度）では 8%、41%、5%である。この 3 つの分野の割合の合計はグループⅠからⅡへとその率が上がっている（57%→71%）。

また、卒業後 4 年以上の卒業生の就業の状況を産業別に調査した（表 e）。平成 27 年度の国勢調査と比較して、「情報通信業」「金融業、保険業」「学術研究、専門・技術サービス業」「教育、学習支援業」「公務（他に分類されるものを除く）」の割合が多い。特に、学術研究に進んだ卒業生が多いことがうかがえた（グループⅠで 19%、グループⅡで 17%、国勢調査で 3%）。5 年前の調査では約 11%であり、この産業への就業率が上昇している。大学院への進学率の上昇と専門分野を究めたいという意識の上昇が影響していると考えられる。また、国勢調査のデータと比較して高かった産業のうち、「金融

業、保険業」「学術研究，専門・技術サービス業」「教育，学習支援業」「公務（他に分類されるものを除く）」について，その出身学部を調べたところ，表 f のようになった。学術研究に進んだ卒業生の出身学部を 5 年前の調査と比較すると，社会科学と理学の割合が上がっている（それぞれ 10%→28%，8%→15%）。教育，学習支援業に進んだ卒業生の理学部出身者もその割合が上がっている（2%→12%）。

留学の経験に関しては，今回の結果からだけでは特筆すべきことはなく，今後の動向との比較に活用しようと考えている。

本校のさまざまな取組（SSH の対象外も含む）のうち，本校で身につけさせたいと考えている力を身につけるために役立つものとして，5 つの設問すべてで「2. 総合的な学習の時間（総合探究，探究基礎を含む）の授業」の割合が高かった（表 g）。すべての項目で 60 %以上の回答者が「2. 総合的な学習の時間（総合探究，探究基礎を含む）の授業」を選択していた。特に，「ある主張の説得力を高めるための証拠を集めたり，調査すること」の項目では，80 %以上の回答者が選択していた。

科学技術と社会に関して【1】～【5】の 5 つの意識調査を行った。その結果を表 h に示す。科学技術についてのニュースや話題に対する関心，科学に対するイメージや姿勢は高かった。特に【3】～【5】の 3 つの結果については，5 年前の結果と比較して，「関心がある」または「ある程度関心がある」を選択した割合が上昇した（【3】79 %→90 %，【4】66 %→75 %，【5】52 %→60 %）。そもそも【3】～【5】は，本校が独自で調査した項目であり，これらの内容は関心を持たせたいと意識してきたものである。SSH の第Ⅱ期指定（平成 17 年度指定）で，人間探究科，自然探究科に加えて普通科も SSH の対象とし，第Ⅲ期指定（平成 22 年度指定）で「論理的・批判的言語能力の育成」を課題として，文系にもティーチング・アシスタントを配置し，普通科でも本校独自科目「探究基礎」を設置した。これらによって，すべての生徒に，実証性の重要性や定義，根本に戻って考える姿勢を身につけさせてきた。

【3】～【5】の項目に関心のある卒業生の割合が上昇したのは，その成果だと考える。

「総合的な学習の時間」がどれくらい役立ったかを調査した（表 i）。4 つの設問すべてで「とても役立った」「役立った」の合計が 50%以上であり，グループⅠからⅢになるにつれて，その率は上がる傾向にあった。5 年前の結果と比較しても，「とても役立った」「役立った」の合計はすべての項目で上昇している。

表 a 卒業生の修士課程進学率。左表が実際の修士課程進学率[%]（卒業生の修士課程進学者/卒業生の大学等進学者），中表が進学予定者を含んだ進学率[%]，右表が学校基本調査による進学率[%]（修士課程進学者/その年度の大学卒業生）である。

	アンケート			予定含む	アンケート			全国標本 修士課程 進学率(%)	
	修士課程 進学率(%)	男	女		修士課程 進学率(%)	男	女		
4～9期生 (H17～22年3月卒業)	43.4	55.1	35.9	4～9期生 (H17～22年3月卒業)	43.4	55.1	35.9	H26	11.1
10～14期生 (H23～27年3月卒業)	44.7	51.8	37.0	10～14期生 (H23～27年3月卒業)	47.9	57.0	38.0	H31	10.5
15～18期生 (H28～31年3月卒業)	—	—	—	15～18期生 (H28～31年3月卒業)	50.2	68.6	32.2	—	—

- ・アンケート：(卒業生の修士課程進学者/卒業生の大学等進学者)×100[%]
- ・全国標本(学校基本調査)：(修士課程進学者/その年度の大学卒業生)×100[%]

(5年前)

	アンケート			予定含む	アンケート			全国標本 修士課程 進学率(%)	
	修士課程 進学率(%)	男	女		修士課程 進学率(%)	男	女		
1～4期生 (H14～17年3月卒業)	34.6	64.8	18.6	1～4期生 (H14～17年3月卒業)	36.5	66.7	20.6	H21	12.2
5～9期生 (H18～22年3月卒業)	41.3	55.2	28.8	5～9期生 (H18～22年3月卒業)	45.5	60.8	31.7	H26	11.1
10～13期生 (H23～26年3月卒業)	—	—	—	10～13期生 (H23～26年3月卒業)	49.6	58.8	39.8	—	—

- ・アンケート：(卒業生の修士課程進学者/卒業生の大学等進学者)×100[%]
- ・全国標本(学校基本調査)：(修士課程進学者/その年度の大学卒業生数)×100[%]

表 b 卒業生の博士課程進学率。左表が実際の博士課程進学率[%]（卒業生の博士課程進学者/卒業生の修士課程進学者），中表が進学予定者を含んだ進学率[%]，右表が学校基本調査による進学率[%]（博士課程進学者/その年度の修士課程修了者）である。

	アンケート			予定含む	アンケート			全国標本 博士課程 進学率(%)	
	博士課程 進学率(%)	男	女		博士課程 進学率(%)	男	女		
4～9期生 (H17～22年3月卒業)	27.4	24.5	30.4	4～9期生 (H17～22年3月卒業)	29.5	26.5	32.6	H28	9.4
10～14期生 (H23～27年3月卒業)	16.7	16.9	16.2	10～14期生 (H23～27年3月卒業)	27.2	30.8	21.1	—	—
15～18期生 (H28～31年3月卒業)	—	—	—	15～18期生 (H28～31年3月卒業)	31.9	31.9	31.9	—	—

- ・アンケート：(卒業生の博士課程進学者/卒業生の修士課程進学者)×100[%]
- ・全国標本(学校基本調査)：(博士課程進学者/その年度の修士課程修了者)×100[%]

(5年前)

	アンケート			予定含む	アンケート			全国標本 博士課程 進学率(%)	
	博士課程 進学率(%)	男	女		博士課程 進学率(%)	男	女		
1～4期生 (H14～17年3月卒業)	20.4	28.6	5.3	1～4期生 (H14～17年3月卒業)	24.6	30.6	14.3	H23	10.8
5～9期生 (H18～22年3月卒業)	17.4	14.5	22.5	5～9期生 (H18～22年3月卒業)	30.0	27.6	34.1	—	—
10～13期生 (H23～26年3月卒業)	—	—	—	10～13期生 (H23～26年3月卒業)	32.3	33.8	28.6	—	—

- ・アンケート：(卒業生の博士課程進学者/卒業生の修士課程進学者)×100[%]
- ・全国標本(学校基本調査)：(博士課程進学者/その年度の修士課程修了者)×100[%]

表 c 大学院修士課程に進学した卒業生の専攻分野

修士	科学 人文	科学 社会	理学	工学	農学	その他					
4～9期生 (H17～22年3月卒業)	11.6	12.6	16.8	28.4	12.6	17.9					n=95
男	6.1	14.3	18.4	49.0	4.1	8.2					n=49
女	17.4	10.9	15.2	6.5	21.7	28.3					n=46
10～14期生 (H23～27年3月卒業)	3.1	7.3	14.6	36.5	20.8	17.7					n=96
男	3.4	6.8	16.9	44.1	16.9	11.9					n=59
女	2.7	8.1	10.8	24.3	27.0	27.0					n=37
全国標本	科学 人文	科学 社会	理学	工学	農学	歯医 学・	薬学	家政	教育	芸術	その他
H26	7.2	10.4	8.5	41.6	5.4	1.0	1.3	0.6	6.3	2.6	15.0
H31	6.1	9.9	8.9	41.0	5.4	1.0	1.4	0.5	4.8	2.8	18.2

表 d 大学院博士課程に進学した卒業生の専攻分野

博士	科学 人文	科学 社会	理学	工学	農学	その他					
4～9期生 (H17～22年3月卒業)	3.8	11.5	30.8	19.2	7.7	26.9					n=26
男	0.0	8.3	41.7	33.3	0.0	16.7					n=12
女	7.1	14.3	21.4	7.1	14.3	35.7					n=14
全国標本	科学 人文	科学 社会	理学	工学	農学	歯医 学・	薬学	家政	教育	その他	
H28	7.9	8.3	6.8	17.6	4.8	28.1	3.3	0.3	3.1	1.0	18.9

表 e 卒業生の就業の状況

	4期生～ 9期生 (n=209)	10期生～ 14期生 (n=140)	H27国勢調査	
			25-29歳	全年代
農業、林業	0.5	0.0	1.1	3.5
漁業	0.0	0.0	0.1	0.3
鉱業、採石業、砂利採取業	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	1.9	1.4	5.0	7.4
製造業	17.7	20.0	17.2	16.2
電気・ガス・熱供給・水道業	0.5	1.4	0.5	0.5
情報通信業	8.1	9.3	4.1	2.9
運輸業、郵便業	2.4	0.0	3.7	5.2
卸売業、小売業	1.9	3.6	15.4	15.3
金融業、保険業	4.3	6.4	2.9	2.4
不動産業、物品賃貸業	1.4	0.0	1.4	2.0
学術研究、専門・技術サービス業	19.1	17.1	3.1	3.3
宿泊業、飲食サービス業	0.5	2.9	4.5	5.5
生活関連サービス業、娯楽業	1.0	1.4	4.0	3.5
教育、学習支援業	11.5	5.0	5.1	4.5
医療、福祉	11.5	12.1	14.8	11.9
複合サービス事業	0.0	1.4	0.9	0.8
サービス業(他に分類されないもの)	2.4	5.0	4.3	6.0
公務(他に分類されるものを除く)	11.0	7.9	4.6	3.4
その他	4.3	5.0	7.2	5.4
	(%)	(%)	(%)	(%)

表 f 「卸売業、小売業」「学術研究、専門・技術サービス業」「教育、学習支援業」「公務(他に分類されるものを除く)」について、その出身学部

	科学 人文	科学 社会	理学	工学	農学	その他	
金融業、保険業	6	10	0	0	1	1	n=18
学術研究、 専門・技術サービス業 (法律事務所、デザイン業、経営コンサルティング業、広告業、獣医療等を含む)	8	18	10	12	12	4	n=64
教育、学習支援業	13	5	4	0	1	8	n=31
公務 (他に分類されるものを除く)	8	16	2	1	3	4	n=34

表 g 探究的な力を身に付けるために役立ったものを本校のさまざまな取組（SSHの対象外も含む）のうちから3つ選ぶ質問の集計結果

		教科の授業	総合的な学習の時間	海外研修	委員会活動	行事	HR活動	フィールドワーク・講演会	進路指導	部活動	生徒同士の交流	
ふとしたことを疑問に思ったり、人が気づいていない問題に気づくこと	全体	21.2	66.4	21.2	23.2	22.7	4.1	13.8	3.2	20.0	28.8	n= 660
	4～9期生	22.2	65.5	18.2	18.2	19.2	3.0	17.2	1.0	14.3	30.0	n= 203
	10～14期生	20.5	63.4	18.0	25.9	19.5	4.4	14.1	4.4	18.5	37.1	n= 205
	15～18期生	21.0	69.4	26.2	25.0	28.2	4.8	10.7	4.0	25.8	21.0	[%] n= 252
人に質問をしたり、対話をしたり、議論をうまくすること	全体	17.8	60.0	18.4	27.4	31.1	8.7	6.3	2.0	23.0	25.0	n= 653
	4～9期生	18.8	64.4	16.8	25.2	18.8	5.4	5.4	1.5	21.3	26.7	n= 202
	10～14期生	14.8	57.6	15.3	25.1	32.5	9.4	7.4	2.5	24.1	29.1	n= 203
	15～18期生	19.4	58.5	22.2	31.0	39.9	10.9	6.0	2.0	23.4	20.2	[%] n= 248
ある主張の説得力を高めるための証拠を集めたり、調査すること	全体	24.7	84.7	12.8	24.4	7.7	3.7	5.1	2.6	8.5	14.5	n= 647
	4～9期生	26.5	83.5	8.5	21.5	6.0	3.0	7.0	2.0	7.5	17.0	n= 200
	10～14期生	21.8	86.1	10.4	26.7	7.9	3.5	5.4	2.5	8.4	15.8	n= 202
	15～18期生	25.7	84.5	18.4	24.9	9.0	4.5	3.3	3.3	9.4	11.4	[%] n= 245
問題解決のための具体的な手立てを考えだすこと	全体	28.4	70.5	16.0	26.0	24.5	4.2	4.5	2.5	16.6	13.2	n= 638
	4～9期生	31.5	68.5	17.0	26.5	18.5	6.0	4.5	3.5	13.5	16.0	n= 200
	10～14期生	24.2	73.2	13.9	25.3	26.8	3.1	3.6	2.6	16.5	12.9	n= 194
	15～18期生	29.1	70.1	16.8	26.2	27.5	3.7	5.3	1.6	19.3	11.1	[%] n= 244
自分自身の科学的センス	全体	57.1	69.6	4.7	15.0	4.1	1.9	11.5	1.9	6.4	15.0	n= 513
	4～9期生	55.5	66.5	5.2	14.2	5.8	3.9	12.3	1.9	5.2	17.4	n= 155
	10～14期生	64.2	72.3	2.5	11.3	3.1	1.3	10.7	1.3	8.2	17.0	n= 159
	15～18期生	52.8	69.8	6.0	18.6	3.5	1.0	11.6	2.5	6.0	11.6	[%] n= 199

表 h 科学に関する意識についての調査結果

		関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	関心が無い	わからない	
【1】あなたは、科学技術についてのニュースや話題に関心がありますか	全体	32.1	48.5	14.6	3.9	0.9	n= 691
	4～9期生	29.8	45.9	17.0	6.0	1.4	n= 218
	10～14期生	37.4	49.5	8.9	3.7	0.5	n= 214
	15～18期生	29.7	49.8	17.4	2.3	0.8	n= 259
	全国標本	13.8	36.2	34.1	14.5	1.4	[%] n= 138
		そう思う	どちらかというと思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	
【2】あなたは、科学者や技術者は身近な存在であり、親しみを感じますか	全体	25.7	29.9	28.1	14.1	2.2	n= 686
	4～9期生	29.3	27.9	22.8	16.3	3.7	n= 215
	10～14期生	30.0	34.7	24.9	8.9	1.4	n= 213
	15～18期生	19.0	27.5	35.3	16.7	1.6	n= 258
	全国標本	2.3	10.5	50.0	36.0	1.2	[%] n= 172
【3】あなたは、自分あるいは人類の生活の利便性の向上や健康増進など直接的な利益が得られない研究であつてもすすめる必要があると思いませんか	全体	57.8	32.8	6.2	1.7	1.4	n= 692
	4～9期生	59.2	33.5	5.0	1.8	0.5	n= 218
	10～14期生	57.9	31.9	6.5	2.3	1.4	n= 216
	15～18期生	56.6	32.9	7.0	1.2	2.3	[%] n= 258
			29.9	45.4	18.6	4.5	1.7
【4】あなたは「専門家でなくとも、機器や科学技術を利用するだけでなく、その原理をできるかぎり理解する必要がある」と思いませんか	全体	29.9	45.4	18.6	4.5	1.7	n= 690
	4～9期生	30.0	42.4	21.2	5.5	0.9	n= 217
	10～14期生	31.2	43.7	18.1	4.7	2.3	n= 215
	15～18期生	28.7	49.2	16.7	3.5	1.9	[%] n= 258
			19.6	40.6	29.0	8.9	1.9
【5】あなたは、我が国の政策や政府の方針に興味があり、積極的に情報入手しようと思つていませんか	全体	19.6	40.6	29.0	8.9	1.9	n= 690
	4～9期生	21.2	39.2	26.7	10.6	2.3	n= 217
	10～14期生	20.1	47.7	26.2	4.2	1.9	n= 214
	15～18期生	17.8	36.0	33.3	11.2	1.6	[%] n= 258

全国標本:「科学技術と社会に関する世論調査」(H22の20-29歳, H29の18-29歳)

表 i 「2. 総合的な学習の時間（総合探究，探究基礎を含む）の授業」が種々の状況での能力に与えた影響に関する調査結果

		とても役立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	わからない	
今まで経験のないことに挑戦しようとするとき	全体	21.6	49.4	12.9	3.7	12.4	n= 684
	4～9期生	21.2	45.2	13.8	5.1	14.7	n= 217
	10～14期生	20.7	49.8	13.6	4.2	11.7	n= 213
	15～18期生	22.8	52.8	11.4	2.0	11.0	[%] n= 254
			18.6	48.1	16.7	4.4	12.3
自分が普段は接していない人に何かを伝えようとするとき	全体	18.6	48.1	16.7	4.4	12.3	n= 684
	4～9期生	17.1	44.2	14.7	5.1	18.9	n= 217
	10～14期生	18.2	48.1	18.7	5.1	9.8	n= 214
	15～18期生	20.2	51.4	16.6	3.2	8.7	[%] n= 253
			26.5	49.0	10.8	4.7	9.0
仕事や研究の目標を確認し、計画を立て、実行し、評価をするとき	全体	26.5	49.0	10.8	4.7	9.0	n= 686
	4～9期生	21.4	50.2	11.6	4.7	12.1	n= 215
	10～14期生	28.8	48.8	10.2	5.6	6.5	n= 215
	15～18期生	28.9	48.0	10.5	3.9	8.6	[%] n= 256
			15.2	38.5	23.6	7.1	15.6
自分が所属する集団内で意見の対立があったとき	全体	15.2	38.5	23.6	7.1	15.6	n= 686
	4～9期生	14.2	38.1	24.3	6.4	17.0	n= 218
	10～14期生	16.4	37.6	23.9	9.4	12.7	n= 213
	15～18期生	14.9	39.6	22.7	5.9	16.9	[%] n= 255